

的な健診や日頃のは、適切な検査・上で気を付ける点に

日々のす。あらかじめ測定する家庭部屋を暖めておき、着替えや洗面、トイレを済ませた後、朝食を取る直前に座位で測りましょう。座つてからの安静時間は、座る前の体の動かし方にも影響されます。一度に連續して繰り返し測定してもらうことで、その患者さんに合った測り直後に座つすると始めのタイミングを話し合つて決めます。もともと備わっている体の仕組みを体得する知恵は、病気の知識を正しく役立てます。上でとても大事なことでした」と答えていました。

宇治武田病院

A Q 症状、検査方法は。 脾臓は胃の後ろにある細長い臓器で、脾液（消化酵素）やインスリンなどのホルモンを分泌しています。がんができても初期は自覚症状がない、腹部膨満感や黄疸、背中や腰の痛みといった症状が現れる頃にはかなり進行しています。また、血糖値を下げる働きが弱くなつていくため、糖尿病になつたり、治療中の糖尿病が急に悪化したりすることとがんが見つかる場合もあります。異常を発見するには、まず超音波（エコー）検査を行います。エコー検査は体の負担が少ない点がメリットですが、精度にばらつきがあり、肥満体形の人などはうまく画像に映らないこともあります。50代以上で不安があれば、人間ドックなどの機会にCT検査を受けてみるといいでしょう。

Q 治療について。 主な治療法は手術と放射線治療、薬物療法があります。脾尾部（臓の先端の細い部分）などを切除可能な部分にできたがんは手術で取り、

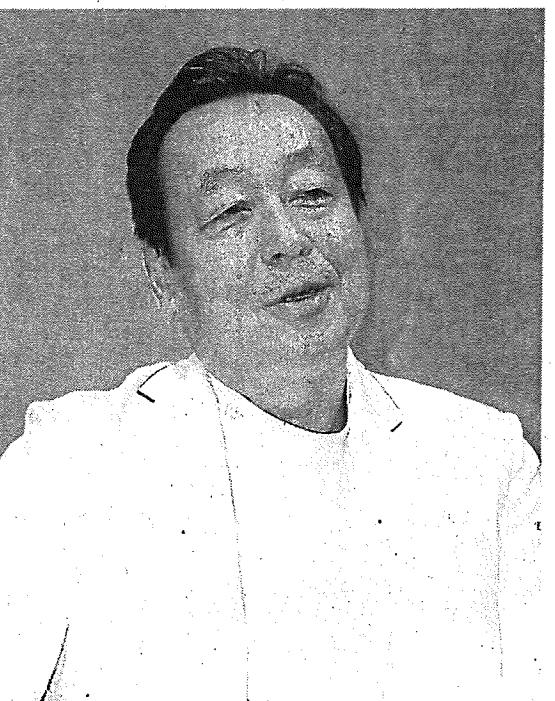
どにより、脾臓がんの患者数は増加しています。脂っこい食事やお酒が好きな人、肥満気味的人は特に注意して、年に1度はエコー検査を受けてください。脾嚢胞や慢性脾炎がある人なら、半年に1度は検査しましょう。がんの治療中でも、何事も制限しすぎると精神的なダメージが蓄積してしまいます。毎日病院へ通い続けるわけではありますから、たまには旅行へ行くなど、好きなことを我慢せず楽しんで免疫力を高めましょう。

暖かくして

山田 浩之 氏

は下がっています。また、孫の世話を引き受けたり、夫が退職して家に入る時間が増えたりして普段の生活リズムが変わることや、転勤や仕事の内容といった職場環境の変化でも変動します。

切除後はインスリンを注射で補います。脾臓さんは、発見時にはすでに他の臓器などに広がつて切除が難しくなることも多いため、そのような場合は主に薬物治療を行います。新しい種類の抗がん剤が使えるようになるなど、薬の選択肢も少しづつ増えてきています。



副院長
鳴 敬 氏

膵臓がん

出されます。心房・心室には血液の逆流を防ぐための弁があり、その一部が正常に開閉しなくなる状態を弁膜症といいます。特に左心房の出口にある僧帽弁と、左心室の出口にある大動脈弁の不具合が問題

し、70代以降に急増します。向かない人でも治療できるようになります。多くは加齢により発症するので確固たる予防法はなく、早期発見・早期治療が重要です。年のせい歩いていて自分が遅れる、だからと不調を放置せず、早めに受診しましょう。